

# 120年の軌跡

1

明治29年4月1日、宇都宮市は誕生しました。今年、それから120年になります。この間、宇都宮は成長し、まちの姿も大きく変わりました。このコーナーでは、宇都宮の120年の歩みを年表と写真で紹介します。



◀市制施行当時の宇都宮市役所市制施行後、町役場から引き続き使用された建物(現在の中央3丁目)で明治43年まで使用されました。

## 宇都宮市年表

西暦	年	主な出来事
1896	29	▽市制施行、初代市長矢嶋中、人口3万5233人、戸数6991戸
1897	30	▽県庁内に電話開通
1899	32	▽杉原町に宇都宮電灯会社を設立、市内に初めて電灯がとる。中心部以外はランプ使用
1900	33	▽魚市場開設
1902	35	▽県内初の公衆電話設置
1903	36	▽鶴田停車場(駅)開設
1906	39	▽旭町1丁目大火全半焼59戸 ▽市内電話開通、加入者は183人
1907	40	▽第十四師団設置決定
1908	41	▽師団司令部で午砲(通称お昼のドン)を開始
1909	42	▽軍道両側に桜を植樹



◀宇都宮駅前風景 駅舎は2代目の駅舎になっており、時代は明治30年代後半から40年代の駅前の光景です。

# はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

母としての優しさがもたらした  
全国最高賞

アイ・エフ・シー栄養専門学校 酒井 貴子さん

「娘からももらった手紙をお守りにして実技審査に臨みました。家族の応援が後押ししてくれました」と振り返る酒井さん。第16回シーフード料理コンクールで、各部門合計2700件を超える応募があった中、「お魚料理チャレンジ部門」の最高賞である農林水産大臣賞を獲得しました。

仕上げ、スズキの旨味を引き立たせます。



おいしさや獨創性などで高い評価を受けたのは、スズキを使った「少キツシュ」。少しでも宇都宮をアピールしたい」と、パイ生地には餃子の皮を使い、さらに、専門学校で習得した製法で作ったメレンゲでふわふわに

元々、住宅会社に勤務していた酒井さんですが、「家庭を持ち、子育てをする中で、食の大切さに関心を持つようになりました」と、一念発起して、昨年春から、専門学校で栄養士の道へ挑んでいます。

「栄養学や調理方法などの面で、食とは理論に裏付けされた化学的なものだと知りました」と、その奥深さを語る酒井さん。「卒業後は、食と栄養の分野で、今までにない新しい取り組みをしていきたいです」と夢を大きく膨らませています。